

令和7年度学校評価（児童アンケート）

	設問	合計(割合)			
		とてもそう思う	思う	あまりそう思わない	まったく思わない
1	1. 授業中、進んで考えて表現していますか。	23%	51%	23%	3%
2	2. 思いやりをもって友達を大事にしていますか。	63%	33%	3%	1%
3	3. 学校に行くことは、楽しいですか。	58%	28%	11%	3%
4	4. 学校のお手紙や連絡をおうちの人にくちんと届けていますか。	47%	35%	15%	3%
5	5. 勉強や友達について悩んだとき、先生に相談できますか。	24%	38%	28%	10%
6	6. 自分には、よいところがあると思いますか。	41%	38%	15%	6%
7	7. 学校で目標を見つけてチャレンジし、解決したことがありますか。	34%	39%	20%	7%
8	8. 授業がわかり、学習の力がついていると思いますか。	43%	43%	11%	3%
9	9. 学校のきまり【学習・生活】を守っていますか。	37%	49%	11%	3%
10	10. あきらめずに最後まで努力していますか。	43%	41%	13%	3%
11	11. 家庭学習をくちんとやっていますか。	57%	30%	10%	3%
12	12. いつも笑顔であいさつを続けていますか。	35%	37%	21%	7%
13	13. 早寝・早起き・朝ごはん・歯みがきを続けていますか。	50%	32%	15%	3%
14	14. 家や学校で好き嫌いせず食べていますか。	42%	33%	19%	6%
15	15. 健康な体をつくるために運動したり、歩いて登校したりしていますか。	70%	23%	5%	2%
16	16. 学校、家、外でけがや事故のないように安全にすごしていますか。（いかのおすし・おかしもち）	67%	28%	3%	2%
17	17. 「学年目標」や「イシュランガイド」になれるように努力していますか。	42%	43%	12%	3%
18	18. 前の日に学習の準備をしっかりし、学習用具の忘れ物がないようにしていますか。	40%	40%	17%	3%

【結果・分析・対応策】

・No.1の「進んで考えて表現している」と肯定的に捉えている児童は74%と、全体の約4分の3を占めており、授業の中で自分の考えをもととうとしたり、表現しようとしたりする意識は一定程度育っていると考えられる。肯定的回答が多い背景には、話し合い活動や発表の場を取り入れた授業づくりや、ペア・グループでの学習活動が一定の成果を上げていることが考えられる。しかしながら、否定的な回答をした児童については26%おり、「自分の考えに自信がもてない」といった要因が影響している可能性がある。思考はしていても「表現できていない」「表現することへの難しさを感じている」ことも考えられるため、児童への配慮が課題である。

・No.2については、肯定的に回答した児童は96%と非常に高く、多くの児童が友達との関わりを大切にしようとする意識をもって学校生活を送っていることが分かる。

・No.5の「先生に相談できる」と肯定的に回答した児童は62%おり、半数以上の児童が困ったときに教職員を頼ると感

じていることが分かる。一方で、「あまり相談できない」「相談できない」と回答した児童は38%おり、一定数の児童が相談への壁を感じている実態が見られる。児童が安心して相談できる環境づくりを進めるため、日常的な声かけや見守りを通して、相談しやすい関係づくりを一層大切にすることや、定期的に教育相談日を設け相談の機会を保障していく。

・No.7については、肯定的に回答した児童は73%であり、多くの児童が学校生活の中で自ら目標を立て、取り組もうとしていることが分かる。一方で、27%の児童が否定的に捉えており、目標設定や挑戦、達成感を十分に実感できていない児童が一定数いることが課題として見られる。今後は、児童一人一人が目標をもち、挑戦と達成を実感できるよう、支援していく。

・No.10の「あきらめずに最後まで努力している」と肯定的に回答した児童は84%と高く、多くの児童が粘り強く物事に取り組もうとする意識をもっていることが分かる。否定的な回答は16%にとどまっており、全体としては努力する姿勢が育っていると評価できる。

・No.11の「家庭学習をきちんと行っている」と肯定的に回答した児童は87%と高く、多くの児童が家庭においても学習に取り組もうとする意識をもっていることが分かる。しかし、自分で計画を立てたり、学習内容を選択したりする自立的な学習の視点では、まだ十分とは言えない児童も一定数いることが推察される。「自分で考えて学ぶ学習」へと高めていくため、学習内容の選択肢を示し、児童が自分で学習を決められる場面を増やしたり、学習計画を取り入れたりと、見通しをもって取り組めるよう支援していく。

・No.16においては、肯定的な回答が95%となっており、その背景には、「いかのおすし」「おかしもち」といった合言葉を活用した繰り返しの安全指導や、特別活動等での具体的な場面を想定した指導が効果を上げていると考えられる。今後も登下校や放課後、家庭での過ごし方について、家庭・地域と連携した指導を行っていく。

・No.18の学習用具の準備に関しては、肯定的に回答した児童は80%おり、多くの児童が学習や生活の見通しをもって行動しようとしていることが分かる。一方で、20%の児童が否定的に回答しており、学習準備の習慣が十分に定着していない児童が一定数いることが課題として見られる。家庭と連携し、生活習慣の定着を図っていく。